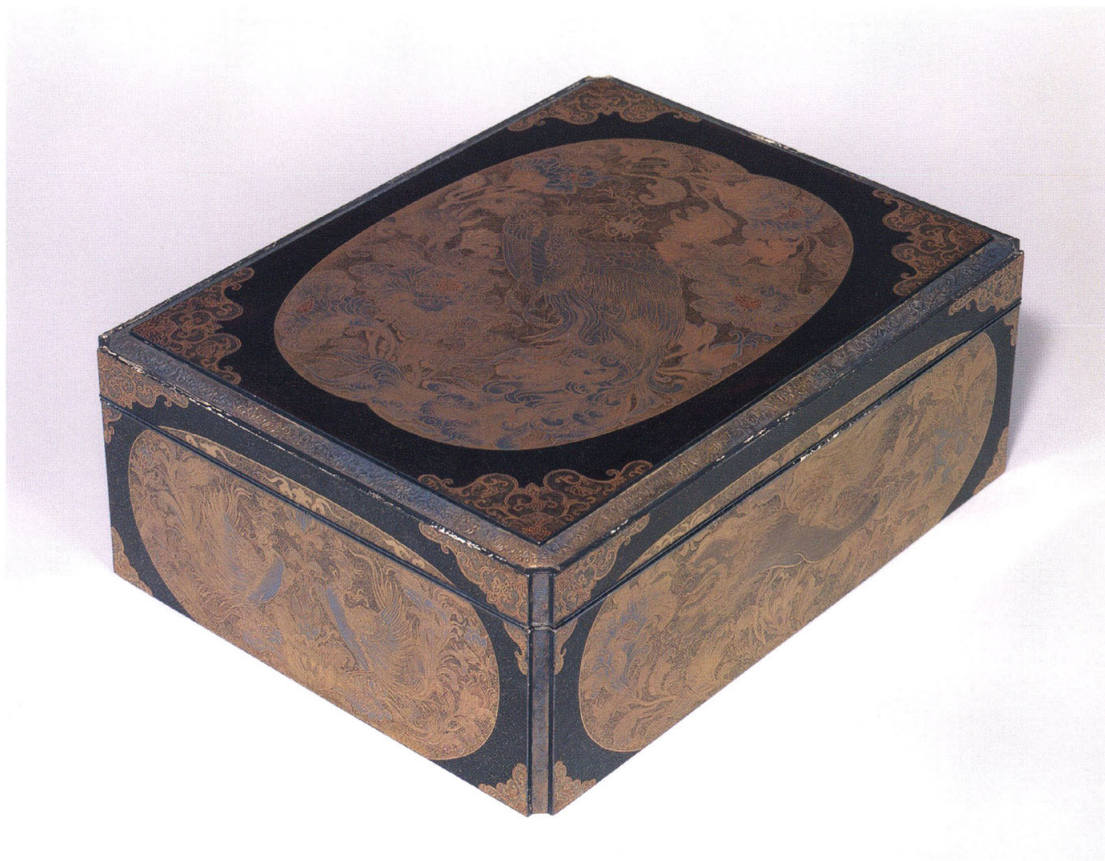


昭和三年（一九二八）蒔絵  
三〇・六×二二・三・六×一一・五

一合



蓋表には宝相華とその花枝をくわえてふわりと羽ばたく鳳凰を、短側面には向かい合わせの鳳凰が、長側面にはたてがみをなびかせて駆け抜ける唐獅子が蒔絵で表された手箱である。蓋と側面の稜線は削面としてその縁に銀の覆輪を被せる。削面には打ち出しによって雲気文を表した、細い銀の薄板が鍍金されて嵌め込まれている。蓋裏左下隅に「紫水（書判）」の刻銘がある。

作者の六角紫水は、漆という材料を軸にしてその活動は幅広く、宮内省により十一年をかけて制作された《菊蒔絵螺鈿棚》（明治三十六年完成、当館蔵）の下図作成、文化財調査と修理、色漆の開発、そして塗装材料として産業的に漆を利用するために自動車や室内塗装方法を開発し、御料車の塗装と装飾にまで発展させるなど、常に新しい分野に挑戦している。創作に関しても探求心はとどまらず、大正期から昭和前期にかけての紫水に大きな影響を与えたのが、朝鮮半島の楽浪遺跡から出土した漆器であった。本作の流麗な線表現、薄い銀板の嵌め込み等には、楽浪漆器の技法研究の成果が見とれる。大正十三年皇太子（昭和天皇）御結婚に際し制作が計画され、昭和三年に完成した一对の御飾棚のうち、昭和天皇へ献上された《鳳凰菊文様蒔絵飾棚》に付属の棚飾品のひとつである。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古典再生 — 作家たちの挑戦

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 72

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十八年三月二十六日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanjūmaru Shōzokan